

會議記要 (二)

日時 昭和十八年十月七日

場所 國家奮力研究所會議室

記

國家奮力研究所研究局會議は荒木理事、中川理事、白井氏、平井氏、  
 家田氏、渡邊氏、河野研究員、並びに石澤氏、河西事務員出席の下に開  
 催さる。中川理事の司會の下に荒木理事立つて、國家奮力研究所の成立  
 經過報告、國家奮力研究所の進むべき途と所員への希望、國家奮力研究  
 所に於て直ちに着手すべき研究事項につき意見の開陳あり、次いで中  
 川理事、石澤氏の發言あり、出席者の懇談に移り午後三時半閉會せり。

以上





## 理事談話大要

「中川理事」それではただいまより研究局會議を開きます。最初に荒木理事より御挨拶がございます。

「荒木理事」本日、ここに國家資力研究所研究局の顔合せ會議に當りまして、從來からここに御集り下さいました皆さんの御助力に對して深甚なる感謝の意を表しますと共に、この機會に於きまして研究局の責任者として各般の事情經過につき申上げ御挨拶致したいと存じます。

國家資力研究所が重大なる國家的使命を持つて生誕致し、益々重要性を持ち來る事につきましてはその由來を申上げれば御承知戴けることと存じます。皆さん御存知の通り昭和六年の滿洲事變以來、日本帝國の財政は飛躍的發展を見たのでありまして、之に伴ひ國民經濟の領域に於きましても自由經濟から統制經濟に移り、平時經濟から戰時經濟への再編成が行はれ、之につれて總ゆるものが統制—計畫的となつたのであります。生産から消費に至る經濟の全過程がすべて統制され



之と共に資金の側に於ても當然統制が加へられるといふことになつたのであります。

大東亞共榮圈建設のためには國防國家の建設が焦眉の事業でありまして、之には莫大なる國家資金を要する事は言ふまでもない事であります。國家資金の圓滑なる運営を期するためには國家の資金をあげて之が遂行に當らなければならぬのでありまして、この重要な使命を果すために國家資金の根本的な調査研究が重要性を持つて來るわけであります。政府は此の點に夙に留意して大藏省に於て昭和十六年九月大藏省國家資金研究室が設置されました。當時之は理財局長の下に出來たのであります。爾來研究室は國家資金の推計に貢獻する處多大であつたのであります。大藏當局の御意嚮と致しましてはこの研究室の重要性を認識されこの擴大強化を圖らんごされたのであります。が行政官廳の性質上速急に之を省内機構の中に強化することは現在困難な事情にありますので、重要性は認識されながら、而も設置に至る具體案が得られなかつたのであります。然しこの研究の重大性に鑑みて何等かの形で具體化したとい



と言ふことは各般の事情から當然の事でありまして、 迫水總務局長  
と私と中川教授との三者により、 之が具體案を作りまして出來上つ  
た次第であります。大體かう言つた事情であります。

従つてかかる背景の下に出來上つた研究所でありますから、 在  
來の研究團體や研究所とは其の使命と目的を異にしてゐることは申  
すまでもありません。先づ第一に國家資金計畫の一助になると言ふこ  
とがこの研究所活動の使命であります。 従つて在來の研究所にあり  
がちな理論の究明だけに終つてはならぬのでありまして優れた意味に  
於ける實踐性を持つた理論的研究を致さねばならぬ譯であります。

第二に、この研究所の總ゆる研究活動は國家資力の研究に焦點を持つ  
てゐる。總ての研究は窺局的にはこの點に歸一するといふことであり  
ます。

以上の二つの使命と目的によつて他の研究所と異つてゐるのであり  
特に國家諸機關との關係が密接でありますので研究員並びに囑託の方  
々に於せられても特にこの點に御留意 願ひたいと存するのでありま



す。  
 さて、本研究所のこれから直ちに着手すべき調査研究事項はこの目的と使命に答へるために次の如きものを最初にとり上げたいと存じます。

- 一 國家資力の概念と其の數量的研究の把握
- 二 新投資の經濟機體に與へる作用の研究
- 三 重要經濟指標値の研究
- 四 主要なる諸外國の國家資力と經濟指標値の研究
- 五 所得分布の研究
- 六 外地及び滿支の國家資力の調査研究と其の方法
- 七 貯蓄と投資との關係問題及びその統計的研究
- 八 標準的國民消費資金の調査研究
- 九 物價問題の研究

大體最初にとり上る問題は以上の九つであります。これらの問題を研究員囑託の方々に夫々擔當して載いて、其の結果を大藏當局に送



告しその資料にして載きたいと考へて居ります。

ではこの研究の方法は何うやつてやるか、之は私の考であるが、各研究員、囑託がこの問題を分擔し毎週一回研究の報告會を開き、夫々擔當研究者から其の報告を聽きそれを中心にして批判檢討を加へる。それから其の他に大蔵省との關係に於て研究所としての會議をなしまして、この研究が空廻りしないようにやつて行きたいと存じます。この二つの會議を併列的に運営することによつて研究所に與へられた目的と使命を完ふしたいと、斯う考へてゐる譯であります。

次に研究所の現在の情態であります。日本銀行副總裁の濑澤さんと、大蔵省の迫水局長と、中川教授と私とが財團法人國家資力研究所設立の時の理事でありまして、其の他の理事も近く決定されることになつて居り、評議員その他も近く決ることになつて居ります。又研究所には參與が置かれますが、この外に學界の代表的な方々に研究局の參與を御願ひするつもりであります。これ等の方々には場合によつて研究會議にも御出席願ふつもりで居ります。



次に研究事項の割當についてであります。在來この關係の仕事は續けてやつてゐるのでありますから直ちに着手して載きたいと存じます。

第一の問題は之は全般的な問題でありますので皆さんが結局はやつて載かねばならぬのであります。大きな問題でもありませんので私と中川教授で主として之に當り渡邊女史を加へてやつて行きたいと考へてゐます。第二の問題は河野研究員に一つ御願ひします。第三は兒山研究員、第四は平井氏、第七は白井氏、第九は家田氏に夫々御願ひすることに致します。第五、第六、第八は又適當な方々に御願ひ致します。尤も第五の所得分布の研究は從來から兒山研究員に擔當して載いて居りましたので併せてやつて載くやうになるかと存じます。

大體この機會に於て申上ることは以上の通りであります。我々は斯くの如くして國防國家建設の達成の一助となるやうに奮闘して行きたいと考へるものであります。では中川さんに御願ひ申し上げます。



「中川理事」ただいま荒木先生から御話があつたので充登盡きて居りますので私から別に申上ることはむいのでありますが、ただ一つもう一ご申上げて置く點があります。それは外でもありませんが、研究される方々は特別に困難な課題を興へられたといふことであります。即ち研究されることはアカデミツクにやつてくれ。だがそれと共に實際問題を處理する實際性をわすれてくれるなと言ふことであります。實際的と言ふこと、理論的と言ふことは研究活動の上に於ては誠に言ふべくして行はれ難いのであります。ともすれば實際的な研究の餘りにつまらぬ資料倒れに終つてしまふのであります。しかし理論研究を行はれるに當つて絶へず其の理論の實踐的性格に留意され乍らやられる態度をつづけて戴きたいと存じます。私からはそれだけ申上げて置きます。

「荒木理事」中川理事のおつしやつた通りです。先づ財団法人の定款につき申上げますと第二條に

「本財団法人ハ國家資金ニ關スル研究調査ヲナシ以テ國家資金動員計畫ノ確立ニ寄與スルコトヲ其ノ目的トス」



ごあります。次に第三條に

「本財団法人ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一 國家資力ノ推計並ビニ配分ニ關スル研究

二 國家資力ノ推計並ビニ配分ニ必要ナル資料ニ關スル研究

三 其ノ他本財団法人ノ目的達成ノ爲ニ必要ナル事項

ごあります。之を以つてしても本研究所の任務の實踐的性格を持つたことが御判りご存じます。中川さんの言はれた通り理論的でなければならぬと同時に實踐的でなければならぬといふことはむづかしいことではあります。が、研究所の由來を考へて置いて、充分に御考慮願ひたいご存じます。

「中川理事」「それではこの邊で閉會に致しませう。



國家資力研究所研究局に於て直ちに着手すべき研究

昭和十八年十月七日研究局に於て採擇された直ちに着手すべき研究事項は左の九事項に決定した。

記

- 一、國家資力の概念と其の數量的研究の把握
- 二、新投資の經濟機構に與へる作用の研究
- 三、重要經濟指標値の研究
- 四、**主要**なる諸外國の國家資力と經濟指標値の研究
- 五、所得分布の研究
- 六、外地及び滿支の國家資力の調査研究と其の方法
- 七、貯蓄と投資との關係問題及びその統計的研究
- 八、標準的國民消費資金の調査研究
- 九、物價問題の研究